

## 只木ゼミ前期第3問検察反対尋問レジュメ

文責:3班

### I. 反対尋問

- 5
1. 弁護側の立場では、被欺罔者が相当対価を得られれば、すべての場合に詐欺罪の成立を否定するのか。成立を認める場合があるとすれば、どのような場合か。
  2. 弁護側は、詐欺罪において、背任罪とは異なり、条文上、「財産上の損害」が要求されていない点をどのように解するか。
  3. 弁護側の立場では、詐欺罪の保護法益をどのように解するか。

10

以上